

めざす姿

いのちを考え、『生きる力』を育む財産づくり

理念

自分自身や愛する人の心と体を大切に作る人間性を育み、人と人、命と命のつながりが強まる豊かな社会づくり

望ましい食習慣を実践できること、食物として頂く命やそれに関わる苦勞に心から感謝できること、家族との食卓での楽しい時間を共有できること、故郷の食文化に愛と誇りを抱き伝承できること等、これらはすべて、毎日の食の営みや様々な食の体験を通じてはじめて身につけることができるものであり、自分にとって一生涯の財産となるものです。この計画では、食育による「体」「心」「家庭」「故郷」という4つの財産づくりを通じて、一人ひとりが生涯にわたる体と心の財産づくりに取り組み、それが家庭の財産、ひいては故郷の財産となるよう、理念やめざす姿に向け、食育を推進します。



体の財産づくり

- ・年代に応じた望ましい食習慣を実践する
- ・食育を健康づくり、生活習慣病予防につなげる

私たちの食生活は、世の中が便利になる一方で、栄養バランスや生活リズムの乱れを招き、生活習慣病の増加がさらに深刻となっています。一人ひとりが食に関する正しい知識をもち、食を選び取る行動力が求められています。



心の財産づくり

- ・豊かな時間、空間、仲間を共有し、愛情を確認し合う
- ・あらゆる「命」に感謝する

食が手軽で簡単になりつつある中、健やかな心を育むために欠かせないものは、食に込められた愛情です。食べる人はそれを受け止めて、作る人への心からの感謝や敬意を育みます。

また、料理が大変な苦勞の末に食卓に並ぶことを理解できる人は、目の前の料理をおろそかにはできません。「命」への感謝の念を抱くことが食の基本です。

家庭の財産づくり

- ・食卓のコミュニケーションによって食の楽しさを知る
- ・食べる喜び、食べてもらう喜びを共有する
- ・食卓を「生きる力」を育む基礎的な人間教育の場とする

食卓で家族と共に食べ、コミュニケーションをとることは、食の楽しさであり、その体験を重ねることは、家族の大きな喜びとなります。たとえ一人で食事をして、そこにいない家族や友人の存在に思いを馳せ、気遣う温かい気持ちを抱かせます。

また、大人は子どもの食に責任をもち、子どもは食事のマナーを教わりながら、礼節を身につけ、手伝いをする中で、達成感や責任感を抱きます。こうした経験の積み重ねが、食の自立を図り、生きる力を育むのです。

故郷の財産づくり

- ・故郷の食文化を伝承する
- ・自然環境や地元産業を理解し、故郷に誇りと愛を抱く

故郷の食文化や技術を伝承していくためには、あらゆる世代が下関の食文化に関心をもち、伝承してきた人々に敬意を表し、その素晴らしさを理解することが重要です。

さらに、食文化や技術を学び、伝えていく次世代の育成が求められています。

